

第2回 榎原市総合教育会議 議事録

日時：令和5年2月14日（火）

13時30分～15時30分

場所：本庁西棟4階第1会議室

<出席者>

○構成員：亀田市長、吉田教育長、中平委員（教育長職務代理者）、伊藤委員（教育委員）、松山委員（教育委員）、平田委員（教育委員）

○市：山風呂理事

【企画戦略部】戸田企画戦略部長、若森企画戦略部副部長、清水企画政策課長、西川企画政策課主幹、山本企画政策課課長補佐、谷本企画政策課課長補佐兼企画係長、松井企画政策課主査、大前企画政策課主査

【教育委員会】栗原教育委員会事務局長、河野教育委員会事務局副局長、熊本教育委員会事務局副局長、片岡教育総務課長、吉住学校教育課長、吉田人権・地域教育課長、奥村図書館長、浅口中央公民館長、布上こども発達支援課長、葛本学校教育課指導主事、竹本学校教育課指導主事、伊藤教育総務課統括調整員

【こども・健康スポーツ部】北野こども・健康スポーツ部長、上島こども・健康スポーツ部副部長、清水こども・健康スポーツ部副部長、西浦こども未来課長、森下こども未来課指導主事、今井スポーツ推進課長

<傍聴人数> 4名

1. 開会

2. 市長挨拶

改めまして、みなさんこんにちは。榎原市長の亀田でございます。まずは令和4年度第2回目榎原市総合教育会議にご出席頂いております教育委員の皆様方はじめ、ご参加いただいておりますことに、感謝申し上げたいと思います。

前回、前々回はコロナのこともあり、リモートでの開催でご不便をおかけしましたが、久しぶりに対面でさせて頂けて、大変嬉しく思っております。

もうご案内のとおり、コロナウイルスに関しての取り扱いが2類から5類へ、あるいはマスクの着用について、かなり大きく変化が起こる局面にあります。ここ2～3年においては、学校現場でも本当に子供達の安全安心、あるいは教職員の職場の環境等々、コロナ対策に神経をとがらせながらの運営だったと思います。

しかし当然、コロナウイルスが完全になくなることはありませんので、感染症に対する

取り組みは継続していかなければなりません。それでも、かなり大きく変わっていくことになるだろう。マスクの着脱について大きなトラブルがあるだろう、という報道もあります。間違った情報が広まって学校現場が混乱しないように、我々も気を付けていかなければならないのかなと思います。

いずれにしても制限がなくなることで、様々な活動が戻ってくると考えられますし、子供達の行事がもっと促進されていけば良いと思います。

総合教育会議は、市長が教育の振興を図るための施策について、教育委員会と協議をする場であります。教育施策をさらに振興していくため、委員の皆様と意見を交わされたいと考えています。

今回の案件につきましては、先日2月10日に開催された県教育サミットの報告、2つ目の案件は中学校における部活動の民間委託について、ということで皆様方と意見交換させて頂ければと考えております。最後は橿原市が行っております「特色ある教育」について、と予定されています。それぞれの案件につきましては、担当部署より説明をして頂くことになっていきますけれど、説明を聞きながら意見交換させて頂ければと思います。時間は限られておりますが、有意義な会議となりますことをよろしくお願い申し上げ、冒頭の挨拶に代えさせていただきます。

3. 教育長挨拶

こんにちは。只今紹介にあずかりました吉田でございます。どうぞよろしくお願い致します。本日はご多用のところご出席頂き、また日頃は市の教育に協力とご支援頂き重ねてお礼申し上げます。

さて、唐突ではありますが本日はバレンタインデーということで、私はある先生を思い出しました。私が最も尊敬して目標としてきた先生であります。新採で配置された学校の先輩教員でした。怒れば生徒はおろか、教員も縮み上がるような怖い先生だったのですが、バレンタインデーになると、女の子からチョコレートをたくさん貰われていました。当時の学年主任が「なぜか？お前、よく見て勉強せえ」と仰いましたので、失礼なのですが、その先生をずっと観察しました。

そうしたら『怖い』です。けれどよく笑うし、生徒も笑かすし楽しいし、一緒に泣いてくれるし、フォローも丁寧という先生でした。本当に勉強になって、今もそういう先生になりたいと思うほどです。教え子の中には、現在、橿原市の管理職がおります。彼はいつも自分が迷った時は「『その先生やったらどうするやろう？』と思いながら決断するんです」と言っております。

もう一人、教員の話をしたいです。彼も怒れば非常に怖い教師ですが、教え子に教師になりたいという子がたくさんいます。彼が3年間担任した学年の子が、19人教育実習に来た年がありました。普通の学校であれば3人から6、7人です。19人の子が、教師になりたいと言って、私が校長をしていた頃、卒業生としてやってきました。今も大学で頑

張っているとか、現場で教員として力を発揮している者がたくさんいます。

今、二人の教員を紹介したのですが、本当に別格と言えば別格で、子供達の心に火をつける先生でした。このように、子供や同僚の先生に勇気や希望、目標を与えられる教員を、我々、市教育委員会としては少しでも多く育てたい。その中で諸課題の解決に取り組みたいと考えております。今日の会議をはじめ、これからも色んなご助言、ご支援を賜りたいと思います。どうかよろしくお願いします。

4. 出席委員紹介

事務局より紹介

5. 議長の指名

橿原市総合教育会議設置要綱第4条第1項により、市長を議長に指名

6. 議題① 県教育サミット（令和5年2月10日開催）の報告

【市長】

会議の進行に対し、ご協力をお願いいたします。本日の会議は、会議録を作成させて頂き、橿原市総合教育会議設置要綱第7条により公開いたします。

それでは議題に入りますが、冒頭に時間軸だけお伝えします。目度としましては15時30分に終わりたいと考えております。それぞれに色々なご予定もありますので、おおよそ2時間弱で全ての予定が終われば、と思いますので、改めましてご協力頂きますようお願いいたします。

まずは議題①の「奈良県教育サミット（令和5年2月10日開催）の報告」について、吉田教育長より説明をお願いします。

【教育長】

（資料1の）中ほどにA4裏表「令和4年度奈良県教育サミットより」という資料は入っておりますでしょうか？

【事務局】

委員の皆様方については、資料1の後ろに。庁内では補足資料として配布させていただいています。

【教育長】

それでは報告させていただきます。先日10日に教育サミットがありました。県知事、教育長、関係各課の長が集まって、現在の課題、現状の報告、どう取り組んでいくのかという話し合いをしました。アイランド形式でそれぞれの代表者が発表したものを、まとめたものであります。

テーマは①教育の質の向上と教員の働き方改革について、②「教育ジャーナル」の発刊についてです。

まず①を細かく分けますと、(ア)校務支援システムについて、となります。これは殆どの市町村が導入して校務の軽減に有効でした。最初は業務が増えるのではないかという教員の不安があったけれども、会議時間の短縮、精選が可能となりました。疲弊していた教員に余裕が出来て、子供と向き合う時間、授業の準備に割く時間が増えたという発表がありました。

(イ) G I G Aスクールについては、若い教員が積極的だが、ベテランがついていけないという現状があるということです。ただ、同じ教員間で共有でき、共通した支援ができる利点もある。学びたいと思える子を増やせる。「遠隔授業」にも役立てられる。

昨日、文教委員会の委員の皆様と、市教育委員会で白樫北小学校を訪問し、1・3・5年生の授業を拝見させていただきました。1年生も本当に生き活きとクロームブックを使いながら、授業に臨んでいました。

その中でベテランの教員が最初は困ったと悩んでいたそうです。ただ、若い教員に聞いたり、その学校では15分程度の研修を何回も行ったりしました。夏休みに10分間ずつ発表する、ベネッセに教えて頂くことで、ベテランの先生もどんどん慣れていき、楽しい授業を展開されていました。

やはり心配なのは今までの教材が使えないところがあるということ。けれど、それはこれから教材を工夫して、市内で教材を共有することもできるのではないかと校長は言っていました。以上でG I G Aスクールの報告を終わります。

(ウ)部活動の地域移行について、に発表の時間が最も割かれていました。やはりどの市町村も戸惑っており、とにかく協議会を立ち上げて検討を進めているということです。

それから部活動そのものを、今一度検討しないといけないのではないかと意識の改革ですね。私も中学校現場で部活動をずっとやっておりましたが、やはり部で学校が保っているという意識が当時がありました。しんどい子達を部で引っ張る、と。そのような意識は今もかなりあると思われる。それに縛られていては、いつまで経っても改革は出来ないという意見も出ました。そして若い教員ほど、移行を希望しています。

先進地を視察している町もありました。とにかく業務を減らすことで、教員が授業力を上げられるようにしなければならない、ということでは一致しておりました。

授業は本来の職務であり、子供達が学校生活の中で最も長い時間を過ごすのは授業です。また『授業は最大の生徒指導』という言葉もあります。授業で子供達をひきつけていれば問題行動も減るだろうし、子供達の自尊感情も高まる。ここにもっと時間を掛けられるように、という意見も出ておりました。

(エ)スクールサポートスタッフですが、非常に助かっているということでした。ただ、樫原市では、この制度を使っておりません。あまりに他の市町村が良いと言っているので、市長とも検討しなければいけないという話をしています。

総じて、いろんな市町村からは費用面の負担、待遇改善、増員を希望する声が出ていました。荒井知事が同じテーブルにおられ、何回か発言されていました。そのことを(資料

に)まとめています。県の職員に過労死があったことから条例の制定に動いている、と。県の職員に向けた条例です。リフレッシュ、環境の改善、働き甲斐のアップということを指すが、これは教員にも共通のことが言える。

そもそも教員のミッションとは何だろう。どうやってモチベーションを上げるか。教員はそもそも「子供の喜ぶ顔が見たい」ということでなされているはず。その情熱を高める、持って頂くには今の状況ではしんどいのではないか。『教育の質の向上を』と言うが『働き方改革なくして教育の質の向上はないか』と、かなり力説されていました。

②「教育ジャーナル」の発刊については、年2回。創刊号は王寺町に出来た王寺義務教育学校の発表があります。ある市町村からは「県の全世帯に配布してほしい」という要望が出ました。

橿原市としてはこども総合支援センターの取り組みや、夜間中学があり、その場（県教育サミット）では出さなかったが、橿原市独特の取り組みではないかと考えております。

最後に総括として吉田県教育長から「県としては今後も色んなことを一括契約で進めていく」と（発言がありました）。ただ『費用を持ちますよ』とまでは言って頂けませんでした。少子化の進む中、部活動の地域移行は誰が何と言おうと避けられない、という（吉田教育長の）考えであります。

荒井知事からは「現場の声が聞けて良かった。とにかくできる手は考えていかなければならない。昔『ゆとり教育』といったが、今や教員の時間のゆとり＝教育の質の向上ではないだろうか」と仰っていました。簡単にまとめますと『働き方改革で教員のゆとりを作り、モチベーションを上げ、子供の笑顔につなげる』といったことを何回も仰っていました。以上で報告を終わります。

【市長】

ありがとうございます。奈良県教育サミットについて教育長からの報告がありましたが、本報告についてご質問・ご意見があれば挙手をお願いします。（挙手なし）

先ほど教育長からも説明がありましたスクールサポートスタッフについて。橿原市は利用していないのですが、何もしていないのではなく、学習指導員を『子供に対する支援を充実させる』という趣旨で整えていることを補足しておきます。

ただスクールサポートスタッフについても、色々聞いていると良い制度なので、導入の検討は必要ではないかと、会議を受けて教育長と話をしていました。うち（橿原市）もある程度の支援はしているが、プラスαとして教員の働き方改革に良いのではないかと考えています。

ほかに何かないでしょうか？（挙手あり）平田委員をお願いします。

【平田委員】

スクールサポートスタッフというのは、どういう方がなられているのでしょうか？

【教育長】

テーブルの隣の町に伺いました。教員免許は不要で、学校が探すようです。時給千三十

円で、一日3時間を5日間。非常に様々なことを手伝って貰っているということでした。

【平田委員】

教職員のサポートというイメージでしょうか？

【教育長】

そうですね。教員の採点などです。内容は資料1に。

【事務局】

補足させていただきます。資料1の7ページに、スクールサポートスタッフの配置ということで掲載しています。

【平田委員】

橿原市の学習指導員の役割は何ですか？

【吉住学校教育課長】

学習指導員につきましては、学校の教室に入り、先生が教えている中で個別対応が必要な子のフォローをする役割になります。

【平田委員】

その方は免許を持っている方々ですか？

【吉住学校教育課長】

免許は特に必要ありません。（教えるのではなく）補助だけになりますので。

【平田委員】

ありがとうございます。その方々は（資料1）8ページ（スクールサポートスタッフの配置について）に書いてあるように国・県から経費負担は貰えるのでしょうか？

【吉住学校教育課長】

スクールサポートスタッフと同様に、国・県からの補助があります。

【平田委員】

ありがとうございます。

【市長】

他にございますでしょうか？（挙手あり）伊藤委員お願いします。

【伊藤委員】

教育長の説明の中で、最後の総括で『県としては今後も色んなことを一括契約で進めていく』とありましたが、これはシステムとかGIGAスクールの話で、部活動の地域移行は関係ない話ですよね？

次の議題に入ってしまうのですが、部活動の民間委託に関しては結構コストがかかると思うのですが、国や県から補助が出るという話はニュースでは聞きません。県の意向として、何か考えられていることはあるのでしょうか？

【教育長】

（補助の話は）出ていないですね。

【吉住学校教育課長】

モデル事業についての支援はあるが、運用についての支援の話は入ってきていません。

【市長】

伊藤委員よろしいでしょうか？他にはありませんか？ないようでしたら①の議題は終わらせて頂いて、次の議題に移らせて頂きます。

議題②中学校部活動の民間委託について、まずは学校教育課から説明をお願いします。

7. 議題② 中学校部活動の民間委託について

【吉住学校教育課長】

資料2で説明

【吉田人権・地域教育課長】

資料2で説明

【市長】

ありがとうございます。それでは只今の説明について、ご質問・ご意見があればお伺いしたいです。（挙手あり）中平委員お願いします。

【中平委員】

土曜日に姫路で大会があつて行かせていただいた時に、姫路市長が『姫路市では校区に全部総合型（地域スポーツクラブ※）を置いている』という話がありました。檀原市はそこまで大きくないのですが、段々と人数が減っていく中で、とにかく早急にする必要があるのもので、それ専門の部局・部署が作ってやって頂きたいと考えます。

※兵庫県姫路市では、多種目・多世代参加型スポーツクラブとして、総合型地域スポーツクラブ「スポーツクラブ21」を各小学校区(姫路市 67 校区+4 地域)に設置している。

【市長】

ありがとうございます。事務局から今のところコメントできることはありますか？今の時点の検討は、どのレベルで行われていますか？

【吉住学校教育課長】

中平委員がおっしゃるとおり、(資料2 ページ4 の) 表では畝傍中サッカー部員は12名であり、来年度に半分程度の部員が入らなければ、3年生卒業時点でチームが組めなくなります。先ほど説明した白檀中バスケットボール部と同じ状況になるため、喫緊の課題であるという認識はしています。

ただ、現在の状況については関係のある3課が集まって課題の議論をしており、課題が多い中で学校現場の意見も聞かなければいけない、ということで、次年度は学校代表者も含めて集まって、先進地視察も含めて取り組みたいという状況です。

【市長】

国としては『令和7年度という目標に必ずしも拘らない』という方針は出たものの、先ほど中平委員が言われた通り、ある程度スピード感を持っていかないといけないと、私自身も思います。

そもそも教員の働き方改革の意味合いがあると思うのですが、それ以上に子供が減って部活動が減っていく中で、例えば小学校でしていた部活が中学校ではない、という子供はどうしているのでしょうか？総合型（スポーツクラブ）みたいなところがあって出来るとか、民間のクラブチームがあって出来る子もいるが、やむなく違う部活動に移行せざるを得なかったとか。そういった状況は掴めていますか？

【吉住学校教育課長】

調査はしていないので、個人的な話になりますが、私の子がサッカーをしています。小学校の頃は地域のクラブがあり、新沢小学校も一緒にチームを組んでいます。しかし光陽中学校はサッカー部がありません。真菅小から大成中もそうですが、中学校でクラブを移るか、地域のクラブチームに入ることになります。

【市長】

そういうチームがない場合は、諦めざるを得ないといけなくなるか？

【吉住学校教育課長】

その学校にある別のクラブに入る、と聞いています。

【市長】

クラブが変わることが、すべて悪いことではないと思う。新しいクラブで開花することもあるだろうし。だけど、やりたいという子が出来なくなるのはどうかと思うので、そういう意味でも早急に体制を構築しておいた方が良いのだろうな、と。

ただ、100点になるような決まりを作るのは難しいだろうと思います。学校の先生でも働き方改革というものの、自分が教えたいという先生もいるだろうし、それが負担になってしんどいという先生もいる。先ほどの子供についても、どうしてもやりたい子もいれば、違うスポーツにチャレンジしてみようかな、という子もいるだろう。

一つの決まり事を全員が納得してもらえないことはないだろうけれど、出来るだけ子供達が自分の可能性を引き出せる環境づくりは必要だと思う。ある程度の年度と出来るところを決めて移行して行って、スピードアップして欲しい。三課で一つの部局を決めて、ひたすらそれを進めていくのも一つの方法として考えられるかなと思います。

他に何か委員から意見はありますか？（挙手あり）松山委員お願いします。

【松山委員】

最初にお話がありましたように『部活は教育活動の一環である』のは確かだと思います。指導員をつけて民間委託の形をとるのですが、スポーツの技術的指導は指導員が上手いと思うが、一方で子供理解の部分に関しては不安を抱きます。

先ほどのお話の一部には、（指導員に）教員免許がない方とかも来られて、単純に技術的なこと以上の子供と指導員の接触を考えた時に、指導員を選考する場合に何か条件をつけていることはあるのか？指導員と子供間のトラブルが、将来起きないかという心配があります。

【吉住学校教育課長】

指導員については、学校からの推薦を頂いているので、子供との関わりについて教育的見地からある程度できる方を任用できていると考えています。あとは非常勤講師の方が、部活動の指導員になられる状況もあります。

【松山委員】

分かりました。学校が指導員の能力をある程度担保しているという理解で良いですか？

【吉住学校教育課長】

そう考えて頂いて結構です。

【市長】

よろしいですか？他にどうでしょうか。（挙手あり）はい、中平委員。

【中平委員】

私は実際水泳で指導に行かせて頂いており、明日香の楽スポも行かせて頂いているのですが、何名かお願いされたら、必ず誰かひとり是指導の免許を持っている者が入ります。そんな感じで参加させて貰っています。そんな風に誰か1名でも（指導の免許を持っている者が）いたら良いかなと思います。

【市長】

なるほど。全員が専門の知識を持っていなくても良いと？

【中平委員】

はい。仲間と呼んでくる人には持っていない人もいるけれど、部活動も水泳をしていてずっと泳いでいる方とか、それなりに指導できる方を呼んでいるので。誰か1名は指導できるという状況で参加しています。

【市長】

先ほど人材バンクの話も出まして、人材確保が大変だという話もありますが、中平委員のような考え方で集めると、もう少し人材は広く拾ってこられるのではないか、という提案だったと思います。

そもそもアンケートの回答に、部活動を指導することに大変ストレスを感じている方もいれば、同じぐらいの比率で子供に接することが楽しい、とあったと記憶しているのですが、これはどこかに載っていましたか？（教育長のまとめた県教育サミットの資料を見る）

教員の本音のところはどうですか？（令和5年1月に実施した）アンケート結果から分かったことはありますか？

【吉住学校教育課長】

1月に実施したアンケート結果の内容を簡単に説明させていただきます。

Q. 担当している部は、希望をした種目ですか？

A. 希望した 58% / 希望していない 42%

Q. 部の指導について自発的に顧問をしていますか？

A. 自発的にしている 53% / 仕方なく顧問になった 47%

Q. （自発的に顧問をしている先生について）地域移行になっても指導者として関わりたい

いと考えていますか？

A. 関わりたいと考えている 17.6%

Q. 現在担当している部について、競技経験があり専門として指導できますか？

A. 専門として指導できる 42% / 専門ではないが指導できる 27.7%

指導はできないが引率などで関われる 30.3%

【市長】

(部活の指導をしたいか否かは) だいたい半々のところでしょうか？これが相当なストレスになっている先生方の負担を軽減する必要があると思います。

しかし松山委員も言われた通り、学校教育のスポーツ、という位置づけはあるのだろ
うと思います。この考え方は、今は馴染まないのかもしれませんが、勉強が苦手でもス
ポーツが得意な子がいる。そういう子を拾ってあげる。勉強だけでよし悪しが決まるわけ
ではないので、クラブ活動で能力を発揮してリーダーシップがあるけど、勉強が苦手な子
は当然いると思う。

そういう子を学校の先生が見ることで、子供の教育に工夫するところを発見するとい
うことなので、もし仮に外部指導員がいても連携は密にしていく必要がある。しかし連
携を密にすれば時間的な拘束になって、大変だという意見もあるだろう。

なかなか難しい話ではあるのですが、そもそも子供が減ってきて、すべての学校です
べてのクラブを維持できないのであれば、子供の意欲を削がないように早急な体制づく
りを検討して頂きたい。お尻を決めて、目標を細かく決めて、ひとつずつやっていく
という風に工夫できないかなと思いますので、お願いします。

他に何かありますか？(挙手あり) 伊藤委員お願いします。

【伊藤委員】

今のアンケートのお話を聞いて、先生方で『自発的に顧問をしていて、かつ地域移行
になっても指導者として関わりたい』という方が17.6%しかおられない、ということ
はですね、ほとんどの先生方は『やらなくて良いならやらない』ということかな、と思
いました。

【市長】

そこは非常に少ないと思いました。

【伊藤委員】

非常に少ない。まあ、アンケートのやり方にもよると思いますが。一方でデータとして
出ていない『生徒が希望した部がないから、他の部に流れている／部に入っていない／
他のことがやりたい』という子がどのぐらいいるのかは、徐々に調査をして貰いたい。

課題として最後のページに色々書かれていますが、やはり優先順位をつけていかないと
いけない。生徒がどんどん減っていくから、学校単位での部活動は地域以降しても存続
できないことがかなり増えてくると思う。現状もやられていますが、複数校での合同チ
ーム(を実施していく)。大会とかの問題はあると思いますが、そういう課題は後で解決したら

良いと思いますから、市長の話にもありました榎原市にいくつかあるクラブチームと話を始めてほしい。

生徒を見る力というのは先生の協力が必要なのですが、しっかり授業に集中して頂くためにも外部の専門家や外部の力を借りるということを、モデルケースの形ででも進めていくことが一番大事であると思っています。

ひとつだけ、中平委員の話にもあったのですが、教育委員会を見渡すと中々そこまで手が回らないな（という現状がある）。国として大々的に進めていく以上は、国や県から補助なり人員の拡充なりを検討して頂かないと進められないのではないかと、という気がします。ご検討お願いします。

【市長】

ありがとうございます。課長、何かコメントはよろしいですか？今のご意見を参考にさせて頂いて出来るだけ進めて頂きたいと思います。市長部局もしっかり絡みたいと思います。（挙手あり）はい、平田委員。

【平田委員】

あまり偉そうに言うつもりはないのですが、今この4ページの表を見させて頂いて、部活動推進指導者が4名おられる？この方々は単独指導不可となっていると思われるのですが、卓球とカラーガードだけなら相談しながら移行できそうな感じがするのですが、その辺はヒアリングや動きがありますか？

【吉住学校教育課長】

カラーガードにつきましては、部活動推進指導者は本当に外部なので、月2回程度になってしまいます。これはクラブを持つとなるとかなり負担が大きい。

【平田委員】

今後の方針として、土日を持ってもらうように交渉とか出来るのかな、と思って聞かせて頂きました。これだけクラブがある中で一度に移行するのは大変なので、少しずつでも出来るところをやって修正する、段階的に出来るのではないかな、と思って聞かせて頂きました。

【吉住学校教育課長】

まず受け皿、になるのかと思います。スポーツクラブも含めて、スポーツ全体になるので、市長が先ほど言ったとおり市長部局とも連携しながら受け皿、人員の確保を検討していきたいと思います。

【市長】

よろしいですか？

【平田委員】

必ずやらないといけないことなので、早めにやって頂きたい。教員の負担を軽減する意味において是非お願いしたいなと思います。よろしくお願いします。

【市長】

ありがとうございます。平田委員もおっしゃったように、これ全部を完璧に整えてからやると、いつまで経っても出来ないことは容易に考えられることなので、出来るところから少しずつでもやっていって、また改善改良を加えていく。来年度早々から出来るように、今年度中に相談することが必要なのではないかと。

色んなことがあるのは分かっているのが、これも大事なことだと思いますので、よろしくお願いします。

ほかに。(挙手あり) はい、中平委員。

【中平委員】

子供達が入りたい部活がない、というのはあるので、決まった枠ではなく、子供達が何人か集まって率先して出来る方法も必要ではないか。新しいこと＝ダンスとか色々増えてきているので、新しいことを自分達で考えさせることが必要ではないかと思います。

【市長】

おっしゃる通りかと思います。ここに書いてあるだけが部活動ではないので、それぞれの学校へ働きかけをしていくのも良いことかもしれません。そして別にひとつに拘らなくても良いのですよね？この季節はこれをやるけど、この季節はこれをしたいということは、スポーツによっては当然あるかもしれませんね。本当にこれに拘らずに、やりたいことを出来るような環境を作ってあげることかなと思います。

教育長、何かありますか？色んな意見がありましたので集約して頂いて。あまり時間を掛けることも出来ませんので、出来るところからやることをお願いしたいです。

それでは、次の議題に移らせて頂きます。議題③「特色ある教育」についてです。資料3です。4つの項目に分かれております。まずは①ICT環境の整備状況及び活用について、担当課より説明をお願いします。

8. 議題③「特色ある教育」について

①ICT環境の整備状況及び活用について

【森下こども未来課指導主事】

資料3で説明

【葛本学校教育課指導主事】

資料3で説明

【市長】

ありがとうございました。①ICT環境の整備状況及び活用について、こども未来課・学校教育課から説明がありましたが、この内容について何かご質問・ご意見はありますか？(挙手あり) 平田委員お願いします。

【平田委員】

すみません。ICTと連携していると思うのですが、整備ではなくもうひとつプログラミング教育というものが榎原市にもあって、これは必修になってきていると思います。現

段階でICTの活用状況がこのような中、プログラミング教育はどこまで行われているのですか？

【市長】

葛本先生、お願いします。

【葛本学校教育課指導主事】

今、小学校におきましては6年生の理科の授業で『ME SH（メッシュ）』というプログラムを使った授業を、昨年度より市内16校で行っています。今年度、中学校におきましてはEdTech（エドテック）という国の補助金事業を使ったライフイズテックの教材を使って、市内6校で授業を実施しています。現在の状況は以上です。

※EdTech導入補助金…EdTechツールを提供するEdTech事業者に対して経済産業省が導入費用の一部を補助することで、学校側がICTを活用した教育サービスを導入実証できる制度。2020年度にGIGAスクール構想に併せて導入された。

【市長】

ありがとうございました。平田委員、更にありますか？

【平田委員】

それは専門スキルを持った先生でなくとも、システムを使えば指導できるものですか？

【葛本学校教育課指導主事】

まず小学校における『ME SH』は特に専門性を要するものではなく、小学校の教員であればある一定（水準で）使えるものです。ただやはり、職員によってはスキルに差があります。今現在、市ではICT支援員を月2回、学校へ派遣をしていますので、このICT支援員の力を借り、来られる時間にME SHを使ったプログラム教材の授業を充てている学校が多いです。

また中学校におきまして、主に技術科の先生方がこれを担当されます。これについてはライフイズテックに、各校の担当の先生方と連携・連絡をとりながら、授業のサポート体制を（作るよう）依頼しています。ライフイズテックは、EdTechの補助金にまつわる事業になりますので、適宜このライフイズテックと学校の先生方が連絡をとりながら授業をしています。

【市長】

平田委員、どうでしょうか？

【平田委員】

この辺（プログラミング教育）のことを、全教員が共有できないと認識したのですが。また研修をすると時間が掛かって、教員の時間が（圧迫される）ということになるのかな、と。こういうのは、児童生徒がいない時間に研修が行われるのですか？

【葛本学校教育課指導主事】

こちらは単元計画が来た時期に研修することになります。いずれの教材も2学期の後半から3学期にすることが多いです。

今年度、中学校では初めてプログラム教材を使うことになりましたが、一律で同じものを使えたこと、春の段階からライフイズテックと技術科の先生方で連絡を取り合って頂いたこと、主に2学期の後半から1・2月に取り組んでいる学校がほとんどだったことから、それまでに先生方は教材の使い方を習熟して頂いていたように思います。

【平田委員】

教えるほうの問題ということになるのでしょうか？

【葛本学校教育課指導主事】

中学校は技術科の先生方が専門になるのですが、先生のおっしゃるとおり技術科の先生全員がプログラミングに習熟されている訳ではありません。しかしながら、今年度はこの補助金制度を使って同じ教材を使えたということで、横の繋がりも活かしながらやれたようです。やはりやっていかなければならないことの一つですので、何とか取り組んでいるところかな、と思います。

【市長】

(挙手あり) そうしたら中平委員お願いします。

【中平委員】

昨年、白樫中学校でプログラミングの授業に参加させて頂いたのですが、子供達がめっちゃ喜んでいるのですよね。分からない子へ、分かる子が席を立てても教えに行っている。だから、案外子供の方が(習熟は)早いのかなと感じました。子供の方が先生から一回聞いたことを、席立ってみんなに教えに行っていたので。

【市長】

はい。葛本先生、今の意見どうでしょうか？

【葛本学校教育課指導主事】

おっしゃるとおりの所もあるかと思います。私は昨年度、小学校現場でME S Hを使った授業と一緒に入っていましたが、子供達は本当に習熟が早いのと、発想が豊かですので、なかには先生以上に進んでいく子供達もいました。

【市長】

確かに子供の方が覚えは早いと思うのですが、先生もそこはどんどん積極的に行くという姿勢があれば。子供が学ぶスピードが先生より早いのは仕方ない部分があると思いますが、意欲的にやる先生なのか否かというところは、そもそものところにあるのかもしれませんが、そこはしっかりとフォローできる体制を作って頂きたいと思います。

平田委員、特にないですか？

【平田委員】

おっしゃるとおり子供の方が覚えは早いと思います。これからアクティブラーニングということになって来ていますので、先生も共に学んでいったら良いのかなと思います。専門のスキルを身に着けようと思ったら、それ専門の学校に行ったら身に着けないと難しいと思いますので。これからの時代はそういうこともあって良いのかなと思いますので、積極

的に活用するというのを学校に伝えて頂いたら良いのかなと思います。私の感想ですが、そう思います。

【市長】

ありがとうございます。先生方にも周知して頂いて、使うことが苦手だという意識を取り払うことが出来れば良いのではないかと思います。そういう意味でもまた、デジタル戦略課と連携をして頂いて、教員のサポートには何があるのかということを工夫して頂く必要があるのではないかと思います。

私からも一点あります。こども未来課からも説明頂いた幼稚園・就学前のICTの活用とはどんなことをするのかというイメージがあまりつかなくて。小学校1年生になった時に最低限これだけは必要である、という小学校との連携が必要とは、どんな内容のことになるのか簡単に教えて貰えるでしょうか？

【森下こども未来課指導主事】

具体的には今お答えできるものがないと思います。今ある機材・環境を活かしてどのように取り組んでいくか。それこそ子供達の方が今はICTとかに触れ合う機会、スマホであるとかに触れ合う環境が多くなってきている分、やはり直接体験を大事にしていく方が重要ではないかと思っています。

【市長】

はい、ありがとうございます。要は就学前の子供への教育、人間力を高めるには就学前の教育は大事ですよといわれているので、子供の感性を磨くような使い方をICTで出来ればなと思います。高学年になればなるほど、専門的な分野に入っていくのでしょうか。

うまく言えないですが、数式が並んでいるようなものではなく、世界遺産の風景を見て綺麗だなとか、海に潜って見たらどうだったかとか。そういうことにICTをもっと使えて、現場に行かなくても臨場感のある映像が入ってくるとか。(就学前の)年代はそういうことなのかな、と思うのですが、小学校1年生になった時にバラバラだったらいけないので、ある程度は揃えておかなければいけないのかな、と思ったり。

頭の中がまとまりませんが、就学前の子供達のICTの活用はそのようなことを積極的にやって頂きたいと思います。よろしくお願いします。

【森下こども未来課指導主事】

分かりました。ありがとうございます。

【市長】

ほか何か？①について。(挙手あり) はい、伊藤委員。

【伊藤委員】

すみません、時間が押していると思うのですが。市長からデジタル戦略課の話が出ましたが、現状でICT教育におきまして当市のデジタル戦略課が関わっていることがあるのか、なければ展望として関われそうな部分があるのか知りたいです。

【市長】

どこか（回答）いけますか？関わっていると認識していますが、今日はデジタル戦略課いないのかな？そうしたら副部長か部長。

【戸田企画戦略部長】

デジタル戦略課担当です。基本的にデジタル戦略課の事務分掌にもICT・GIGAスクールを支援するとありますので、GIGAスクール構想については支援していくと。

主体は教育行政ということで、市長部局の方から『こうしなさい』と言うのではなく、教育委員会から『こういうことがしたい』という相談があればデジタル戦略課からGIGAスクール構想に関する支援をしていくという形で、現在はやっています。具体的に何をしているかと言うと、担当が不在のため分からないですが、そんな支援体制をとっています。

【市長】

葛本先生から何か事例はありませんか？デジタル戦略課に相談して頂いていることはあるのでしょうか？

【葛本学校教育課指導主事】

現状ではありませんが、相談したいことがあります。

【市長】

そうですね。なんぼでも相談してくるように、とのことですので。

【葛本学校教育課指導主事】

心強いです。

【市長】

是非活用して頂ければと。デジタルに長けた職員がたくさんいますので、伊藤委員がおっしゃるとおりでありますので、まだ実例がないとのことですので、もっと活かして貰えるように、是非教育委員会の方から、現場から声を届けて頂きたい。

よろしいでしょうか？それでは、次の②に移らせて頂きたいと思います。

②全国学力・学習状況調査の結果と今後の取組みについて

【葛本学校教育課指導主事】

資料3で説明

【市長】

ありがとうございました。それでは②全国学力・学習状況調査の結果と今後の取組みについて、ご意見あれば伺いたいと思いますが、どうでしょうか？

それでは、私からひとつお聞きします。分析が出来ているのは小学校だけという説明だったかと思うのですが、結果的に分析した内容からどのようなことが見えてきているのでしょうか？

【葛本学校教育課指導主事】

例えば今年度6校から自校分析に参加頂きました。本来7月に国から帰ってくるデータは全国と奈良県、奈良県と橿原市、自校、それぞれの点数結果を比較することができます。非常に大きな母体の中での自校を分析することが出来ますが、独自の自校分析は参加校が母体となった分析になりますので、今年度であれば参加校の市内6校の中での各校の特徴が分かることになります。

参考資料は昨年度の学力状況調査並びに、今年度の6校の中での自校の立ち位置が理解して頂けるものになります。参加校が多ければ多いほど、市内における自校の立ち位置が分かります。

【市長】

それで現状分析をして、例えば平均より優っているところに更に力をいれるのか、劣っているところに更に力をいれていくのか、ということを各校で分析して、次に繋げていくということを繰り返しているという認識で良かったでしょうか？

【葛本学校教育課指導主事】

そのとおりです。

【市長】

そうなると、自校分析が出来ていないところは気になります。先ほど言ったように時間的制限があって余裕がないとか、何か原因があるのでしょうか？

【葛本学校教育課指導主事】

推察ですが、課題に上げているとおり、これまで全国学力状況調査は国の調査であったため、その感覚が学校現場では根強くあるのかな、と。それに加えて、結果が国全体で返ってきて、国全体の中で自校の立ち位置が分かってくるので、そちらの結果を優先したいという意識の方がまだまだ強いのかな、と感じております。

【市長】

はい。何か委員の皆様からありますでしょうか？（挙手あり）それでは松山委員、お願いします。

【松山委員】

ちょっとピントが外れている気もするのですが。状況調査を努力されているのは分かるのですが、学力自体を上げる取り組みは、何か努力されているのでしょうか？漠然とした質問で申し訳ないです。

子供達の学力を向上させよう、調査結果はこうだったよ、というのは大事だと思うのです。それを踏まえて、どういう風にしたら子供がさらに力を伸ばせるかという部分是对応策されているのか。あればお聞きしたいのですか。

【葛本学校教育課指導主事】

今の先生の質問にお答えします。そちらが今、報告申し上げた②学力向上プラン・プレゼンになります。学校の課題は、学校によって様々です。校長先生からは組織体制として、この学調の結果を受けて、2学期以降具体的にどのようなことに力を入れて取り組むのか示

したものを、秋10月に報告を受けています。

いわゆる学力を向上するために。もしくは、この学力状況調査は学力以外にも生活全般に関わる教科もありますので、トータル的に各校の課題についての向上プランを提出してもらいながら、それを推進して頂いている訳です。

一方で、それに伴ってどのように学力が向上したのか、という検証をこれまで十分に出来ていなかったことが、今年度の大きな課題でもあるのかな、と承知しています。

【市長】

なかなか、どんな成果があったかは分からないということで、やらないといけないですね。

【松山委員】

ちょっと雑談っぽくなってしまうのですが、参考までに。文科省がやっている学力状況調査を見ると、ほぼ秋田県が毎年トップなのですよ。実は僕は秋田に視察したことがあります。教育委員会に色々話を聞いたのですが、秋田県が特色としてやっているのは、いわゆる学位を持った、大学院博士課程を終えたような人達をグループで雇用している。何故そんなことをしているのかと聞いたら『子供達に将来こういう学問なり、仕事の世界が広がっていることをまず見せたい』という動機らしいです。そのグループが各学校を回りながら、子供達の学習意欲を鼓舞する、というようなことをしていました。

それが直接の原因かは分かりませんが、確かに秋田県はずっとトップです。何かそのような、強烈なことも模索してみたらどうかと思います。すみません、無責任な発言で。参考までに。

【市長】

ありがとうございます。確かに、先生がおっしゃられることは良いことだと思います。

これは全く意味がないものではないので、折角やるならそれに対してしっかり取り組む、そして検証する。またそれにチャレンジするという風に好循環に繋げていく。

一番になったらどうだ、ということではないですが、一番を目指してやるべきだろうと。これが全てではないですが、これをやっているのであれば、これでしっかり子供達の学習状況を上げていく、ことに力を入れていくべき。秋田県のような題材があるので、しっかり研究する意味はあるかなと思います。

それ以外で特に。(挙手あり) 伊藤委員。

【伊藤委員】

葛本先生もおっしゃっているとおり、検証されていないというのは、かなり問題があるなと思います。行政でも企業でもそうですが、検証がないものに次のプランも何もないので。タイミングとして校長プレゼンの時に、学調の結果分析と同時に、前年度の取り組みについての検証をやられたらと思いますが、それは出来ないのでしょうか？

【葛本学校教育課指導主事】

是非そのあたりを参考にしながら、次年度の計画を立てていきたいと思っています。

【市長】

伊藤委員がおっしゃるとおり、検証というのは大事なので、しっかりとそういうサイクルで回して頂きたいです。よろしければ次の議題に移らせて頂きます。③全国体力・運動習慣調査の結果と今後の取組みについて、まず事務局から説明をお願いします。

③全国体力・運動習慣調査の結果と今後の取組みについて

【葛本学校教育課指導主事】

資料３で説明

【市長】

説明をありがとうございました。只今の説明に対するご意見ありましたらお願いできますでしょうか？どうでしょう？中平委員、何かございませんか？体力・

【中平委員】

I C Tを使ってやっているところが実際あって、それを見たときに個々の運動を撮って、ここを直すと良いという指導ができる。普通の体育ならみんな一緒だけど、順番に個々の運動を撮って指導しているのを見たので良かったと思う。専門職の方が、タブレットを通して先生が撮ったものを分析して送ってくるのも見たので、そういう方法もあるのかなと思った。

それとスポーツの方ですが、最初の体操からして遊びを取り入れる。中学校でもアクティブチャイルドプログラムといって、体力がないのでゲーム的な感覚で楽しく体操してから始める、というのが入ってきているので、そういうことも取り組んでいけたら良いかなと。

【市長】

今色々ご提案頂きましたが、教育委員会としてキャッチしているものもあるのでしょうか？初めて聞いたやつばかりですか？私もなかなか、こういうことがあるのだな、と今思ったのですが。

【葛本学校教育課指導主事】

I C T端末の使い方については、様々なニュースメディア、教育委員会を通して研修の案内がありますので、今おっしゃって頂いた内容につきましては、学校の先生方をはじめ承知しているところです。が、実際目の前の子供に実践しようとする、まだまだ色んな課題がありますので、そのあたりは先生方と一緒にひとつずつ課題をクリアしながら、新しい取り組みを進めていきたいなと思います。

先ほど申し上げた通り、何か檜原市全体的に共通的に取り組めたらと考えておりまして、今月末の部会で指導・提案したいと思います。

【市長】

ありがとうございます。要は今回の体力調査によって、檜原市の小中学生はどうだったのですか？全国的に比べて。

【葛本学校教育課指導主事】

今手元に資料がありませんが、どの種目に置きましても、おしなべて全国平均並みです。

特段、小学校においては6種目中4種目では全国平均を上回っていますが、先ほど申し上げた通り、全国的に体力の数値が少し下降気味なので、現状をよしとするのではなく、子供達の機能、より良い運動の機会はしっかりと拡充していきたいと思います。

【市長】

これもICT活用ですので、デジタル戦略課にどんどん投げて頂いて、またデジタル戦略課の方でも調べる、協力できることはしてあげたいと思います。小学校体育部会ともしっかりと連携しながら、モデル校を作るのも一つの方法かもしれません。これも出来るところからやっていく、ということで。学校によっては色々体制づくりが難しいと思いますので、出来るところからやっていくというところで、一つ工夫して頂ければと思います。

それではよろしいですか。④に行かせて頂きます。時間もあと残り15分程度になりましたので。④いじめ、不登校等に連続する社会問題に対応した青少年教育の在り方について。これもまずは学校教育課から説明をお願いします。

④いじめ、不登校等に連続する社会問題に対応した青少年教育の在り方について

【竹本学校教育課指導主事】

資料3で説明

【吉田人権・地域教育課長】

資料3で説明

【市長】

ありがとうございました。それでは④の説明に対するご質問・ご意見はございますか？

どうでしょう？子供の環境が多岐に渡っている現状の中で、関わる先生が多ければ多いほどきめ細やかなサポートが出来ると思うが、なかなか現状はそういう訳にもいかない。ぎりぎりのところで頑張っていると思うのですが、課題にもあったように関わる先生方の研修を充実させるのは大事なことだと思います。時間をとるのは大変だけど、研修をして情報共有をすることの大切さと、もう一つの方にありましたけど管理職あるいは児童生徒の保護者との共有とか、出来るだけ密にしながらそれぞれの子供にあったサポートを上げて欲しいです。

あとは義務教育課程を卒業した子供、高校生以上、高校を卒業して大人になってからの引きこもりに対しては実態調査をするということで先ほど報告がありましたけれども、しっかりと把握をしたいと思いますね。どれぐらいの榎原市の状況なのか。そういった方は何を求めているのか、状況を掴むことが大事だと思います。学校教育ではかなり支援が行くけど、(卒業後は)どうも孤立してしまう可能性が高い気がしますので。そういったところも併せてお願いしたいと思います。

私は今のようですが、他の方はどうでしょう？(挙手あり)はい、教育長。

【教育長】

今の不登校に関してですが、何とか彼、彼女らの学力を保証できないかと県も色々考えて

いるようです。市と連携しながら、具体的に進めていこうと考えています。今はこれぐらいしか言えないですが。

すみません、ちょっと戻っても良いですか？

【市長】

どうぞ。

【教育長】

先ほどの学力・学習の件です。大変ご心配をかけています。私も就任の時に学力の向上と大々的に言いましたが、点数はもちろん教員の授業力ですね。『今まで（のまま）で良い』という教員がいますので、授業を改善して欲しいという気持ちで校長会でもしっかり伝えています。

この学力・学習なのですが、校長がプレゼンした時に前教育長は「読み書きにしっかり力を入れてほしい」と指導助言されていました。学校によってはそれ以後、漢字に非常に力を入れているところもあります。色んな取り組みをしてくれている学校もあります。ただ、校長のプレゼンを聞いていて『こうです』『こうします』と言って『授業をどう改善するか』と言う校長が今回もあまりいませんでした。ですが、そのあたりを、葛本指導主事を通して進めていきたい。

先ほど、松山委員がおっしゃった『学識経験者』ですね。私も知人にそういう方がおられるので葛本指導主事に会ってもらって、指導・助言頂きながら定期的に会合を持って進めていきたいと考えています。

最後に「中学校が何故ゼロか？」と市長もおっしゃいました。私も現場の校長を2校したのですが、当時は20時まわっても半分以上残っていました。21時まわっても1/3以上残っている。帰れと言っても帰らない、帰れない。そんな状況がありました。その中で「少し分析してくれ」と実際言いにくい状況がありました。けれど今はそうではない、そうでなくしていつている。3年の学力診断テストは6月から何回かあるのですが、全校教員が協力して採点します。そんな形ででも採点して、教科ごとに分析という形をもとれるのではないかと、葛本指導主事とは話をしています。

検証がないのは問題だ、とご尤もな意見も頂きましたので、改善できるように委員会として学校へ指導助言していきたいと思っています。

【市長】

ありがとうございます。他に委員から何かありませんでしょうか？（挙手あり）平田委員。

【平田委員】

すみません、全般になると思うのですが、色んな問題がある中でどう解決していくかを各部署で考えて頂いていると思うのですが、単独で出来ないことがかなりあると思います。例えば先ほどの部活動の件にしても。この前スポーツ推進課と連携して取り組まれると聞いたのですが、もっと関係部署とか色んなところと、横と連携して頂けたらもっと良くなっていくのかなと思っています。

それからもう一つ。僕の認識が間違っていたら申し訳ないです。学校教育課でいじめの問題に取り組まれ、更に学力・体力に取り組まれている、なかの構成人数が勉強不足で分からないですが、これをひとつの課で一度にやるのはかなり大変だと思う。学力、運動、いじめ対策とか、もうひとつ分けて取り組まないといけないのかな、と思いました。

そして先ほど松山委員が言われたように『学力は秋田が高い』ということ。僕も教育委員になって大曲市（※現在の大仙市）に行かせて頂いたのですが、先ほどの『大学との連携』をされていて、あとは地道な活動で『朝10分間読書をして感想を書かせる』という、5～6年以上前だったので覚えていないですけど、基礎的なことにも力を入れてされていたのが印象的でした。

あと、向こうの環境ですね。秋田の大曲市で出来るのが樫原市で出来るのか、と考えるとちょっと環境が違います。樫原市は大阪に近いし、色んなショッピングセンターとか子供にとっても誘惑がわりとある市になる。大曲というところは、ちょっと良い言葉が浮かばないのですが、素朴な良い町だということで、子供達にとっての環境が違う、という現状を把握することも大事だと思います。

そして向こうでは親御さん、おじいさんおばあさんとかも、色んなところで協力している。送迎したり、勉強を見たりという環境が整っている中での学力だったので、それを樫原市でどこまで出来るのかな、というところを検証して、樫原市に合う方法を考えて頂いたら良いのかと思っています。

それからもうひとつ。石川県も先進地で行かせて頂いた時に、教育委員会がかなり主体となって現場に入り込んで色んな取り組みをされていた。そういう方法もあるということで、私達が視察に行かせていただいたのですが、私達が行くより現場の先生やら校長先生が行かれた方がもっと効果的だと思うので、そういうところに視察に行っていて、学ぶ、参考になるところを取り入れて頂いたら良いと思いました。率直な意見を述べさせて頂きました。

【市長】

ありがとうございました。そのほかに、どうでしょうか？総括的な意見でも結構です。議題はこれで終了となりますので、言い忘れたこととか全体的なこととか、よろしいでしょうか？平田委員が、うまくすべてまとめ頂いたような気がします。教育長も総括的にお話をして頂きましたので。

それでは何もないようでしたら、これで今日の議題はすべて終わりましたので令和4年度第2回樫原市総合教育会議を終了とさせていただきます。

9. 閉会

連絡事項：令和5年度樫原市総合教育会議の日程（予定）

第1回 令和5年10月3日（火）13：30～16：00

第2回 令和6年2月22日（木）13：30～16：00